

このコーナーでは、農業のちよつとしたこつを、市の営農指導員からお知らせします。

## 営農指導員のワンポイントアドバイス

営農指導員 若山 謙

### 【11月】秋冬野菜の栽培管理

この時期は、皆さんの努力の結果が現れ、キャベツ、ハクサイ、ホウレンソウ、コマツナなど、たくさん野菜が収穫期を迎えます。

これからも、ハスモンヨトウやアブラムシといった、病害虫の発生が予想されます。早めに見つけて防除してください。

今回は11月に播種（種まき）・作付けを行う野菜について説明します。

#### 【播種する野菜】

エンドウ類、ソラマメ、コマツナ、ホウレンソウなど

#### 【植え付ける野菜】

タマネギ、春キャベツ、アスパラガスなど

#### 11月の種まき・植え付けに適した主な野菜

#### 【エンドウ類】

連作障害に極めて弱いため、4～5年は同じ場所では栽培はできません。11月上旬までに1アール当たり堆肥200キログラム、苦土石灰15キログラム、肥料チッソ成分0.5キログラム程度施用します。株間は40センチ、1カ所に3～5粒点播（種子を一点に1～

数粒ずつ一定の間隔でまくこと）します。

#### 【タマネギ】

太さ5～7ミリ程度の苗を、霜が本格的に降る前に植えます。1アール当たり堆肥200キログラム、苦土石灰10キログラム、肥料チッソ成分0.7キログラム程度施用します。追肥は1月上旬、2月上旬に施用します。3月以降、暖かくなつてからの追肥は避けましょう。

#### 《試してみよう》サトイモの保存

サトイモの保存は、通常40～50センチの深さの穴を掘り、収穫したサトイモを裏返しにして2段程度重ねて置きます。その上に防寒対策としてもみ殻や稲わらをかぶせ、上から雨が入らないようにビニールで、周囲に排水対策を施します。

ここで提案するのは、サトイモを掘り上げずに（収穫せずに）保存する方法です。一度霜に当たったところに、茎を切り取ります。その上にもみ殻をたっぷりかけます。雨を防ぐため、全体を厚手のシートやビニールなどで覆い、周囲に排水対策を施して完成です。必要な時に必要な株数だけ掘り上げましょう。通常の方法と比べ簡単にできます。

#### 問い合わせ

農業振興課 農業振興係  
0824・73・1131

## 庄原が好き

このコーナーでは、人と人とのつながりや暮らしのストーリーを、シリーズで紹介しています。まちを知り、地元の新魅力を発見することで、人を、まちを、もっと好きになりますように。



本市へ移住し、野生動物の研究や農業を楽しんでいる 柳井 徳磨さん

比和自然科学博物館と現在住んでいる古民家との出会いをきっかけに、野生動物の研究と、大自然の中で農業をするため、本市へ移住し、比和自然科学博物館の客員研究員をしている柳井さんにお話を聞きました。

#### 古民家と絶景

東広島市の自然豊かな山間地で育ち、大学で獣医学や野生動物学の研究、教育に携わってきたので、研究を続けながら自然の中で暮らしたいと思っていました。そんな中、現在の家と比和自然科学博物館に出会いました。

庄原で暮らししてみると、家からは雄大な山々と清流西城川、芸備線の列車を見ることができ、素晴らしい景色に満足しています。アルプス山間の村に

も匹敵すると思います。近所の人もとても親切で、地域の魅力を探したり、農業の相談に乗ってもらったりしています。

#### 研究と比和自然科学博物館

比和自然科学博物館は、モグラの研究や展示、チョウやクジラの化石の展示と充実しており、比和の里山の魅力と相まって、とても感銘を受けました。モグラの研究で有名な中村慎吾名譽館長にもお会いすることができ、大変嬉しく思います。市内に住み始めて、すぐに客員研究員の申請を行い、受理されましたが、新型コロナウイルスによって博物館が休館になったため、まだ研究員としては活動できていません。現在は、自宅で野生動物の研究を行っています。今後も庄原の雄大な自然の中で野生動物の研究を行ったり地域の魅力を発見したりしていきたいと思っています。

SNSの投稿募集中  
「#庄原が好き」  
で投稿！



投稿をク  
▲投稿をク  
チェ

#### 問い合わせ

自治定住課定住推進係  
0824・73・1257